

話題 其の32: “みなさんにお願ひしま〜す。”

<アンマン市内を走行中のドライバーの皆さ〜ん、左右に曲がる前に方向指示器を出して下さい〜い>

ここで運転していると「頼むから、曲がるんだったらウインカー（方向指示器）出して呉れよ」という場面に毎日1〜2度出くわします。事故のないようにしましうね。インシャ〜ラ。

<ヨルダンで働く東南アジアから来たメイドさんたちにお願ひします。貸りたお金は返しましう>

我が家には、週2回、3時間程フィリピン人のメイドさん2人が掃除や洗濯、アイロン、時には料理やその後片付けに来てくれます。因みに1時間2ディナール（約360円）を支払っています。

一般的にメイドさん達は、住み込みで、年に一日の休暇も無く、月給も150ドルが平均でしょう。メイドさんの多くは、フィリピン人、スリランカ人、インドネシア人です。

彼女達の中には、ヨルダンで長期就労者も少なくなく、就労ビザが期限切れの不法滞在者も居ます。我が家の二人も同様で、ジュリィは半年前に、ピレンダは5ヶ月前に失効したままです。

不法滞在が見つければ、1日に1.5ディナールの罰則金の支払い後強制帰国、支払いが出来ない場合は、不法滞在期間の1割の期間刑務所暮らしが待っているそうです。（帰国の旅費は誰が?）

休日も無く、言葉も通じにくいイスラム家庭での辛い日々には逃走したメイドさんもかなり居るようで、同じ国から来たメイドさん宅を泊まり歩いているのです。

勿論、その人たちには収入が無いのですから、身に付けていた財産である指輪、ネックレス、ブレスレット等を質草(?)に友人からお金を借ります。

現在、ジュリィの手元には3本のネックレスと5個の指輪があるそうで、いずれも20ディナール（約3600円）程度の借金の質草に預かっているもので、どれもそれ以下の値打ちしかないといひます。お人好しの彼女はこれまでも困っている友人達を見かねて質草無しでお金を貸しているそうで、ピレンダに厳しく罵られています。ジュリィ曰く「私の気持ちは、神のみぞ知る」の一言でした。

<公務員の皆さ〜ん、仕事の時間ですよ〜〜〜。・・・・?>

年末のよく晴れた日にドライブに出かけました。年始のご挨拶で紹介した写真を撮った日です。

「ヨルダンもなかなか良いとこだな・・・。」なんていい気分でしたら、Uターン禁止違反でお巡りさんのお世話になることと相成りました。日本でもそうですが、交通違反を取り締まるお巡りさん達は穏やかで、「いや〜、捕まえちゃって申し訳ないね〜」とニヤケ顔さえ見せます。

違反者には反則切符がその場で手渡され、1ヶ月以内に最寄の行政事務所（市役所の支所?）で規定額を支払うように支持されました。もし支払いが遅れたら、2倍の支払いになり、それでも支払わないと、自動車登録番号が反則切符に記入されているので、次回の登録を拒否されます。（毎年更新）違反者と車の所有者が異なる場合はどうなのか聞いていませんが、ある人の話では、「支払いが遅れると、裁判所の呼び出されることもあるから早く支払ったほうがいいよ」との事です。

ということで、違反から2週間後に、職場の同僚に付き添ってもらい、行政事務所に出かけました。

3回建ての立派な事務所の入り口脇の受付の小部屋に6人の女性（たまたまかな?）が井戸端会議(?)に夢中で、用件と担当部署の場所を聞きました。怪訝そうな顔つきで「入って左よ」程度の返事が返ってきました。その日の様子を細かく描写はしませんが、公務員の労働意欲や行政サービスというような教育はまずなされていないでしょうね。

以前、ネパールの政府機関に勤務していた頃「貧しい国では、国が一人でも多くの国民を雇用する義務がある」と現地の人が語りました。トレッキング許可書を貰うのに、窓口で何度も長い列に並んだ事を思い出しました。フィリピン滞在中にも日本から送られてきた荷物の受け取りなど郵便局で何度か嫌な思いをしたものです。

「少ない仕事を大勢で分担して、失業不安の少ない安定した職場」に働く開発途上国の公務員達。中にはちゃんと勤務している人も居るんですね。きっと。

日本もつい数年前までは似たような風景がありましたよね。窓口のたらい回しとか。（え 今も?）

因みに、私の反則金は、「違反の報告がコンピューターに登録されていないからまた来てよ」ということで、出直しです。彼らを責めても仕方が無いことですね。ね!
